

第1回学習会（信濃報告）の概要メモ

1. 学習会の流れ

学習会の流れ	
開会	10分
話題提供①（信濃先生） ※現状の認識	30分
Q&A	15分
話題提供②（信濃先生） ※課題提起	15分
グループ討議①（4G） ※話題提供を受けての意見・疑問点洗出し	30分
グループ討議②（4G） ※グループ毎の質問提起と講師からの応答	35分
シナリオ投票	18分
講師からのリプライ	10分
総括（PJ代表）	5分

2. 信濃報告の概要

1) 震災の被害状況と問題点について

- ・放射性物質の飛散と降下が発生した時点での農地の状況
 - 水田は代掻き前、畑は牧草地、小麦を除けば播種前であった
 - 放射性物質の飛散と降下が発生した時点での農地の状態が、その後の対策を考える上で重要となる
- ・茶樹における放射性セシウムの分布
- ・水田に流入する用水中の放射性セシウム
 - 田面水の放射性セシウム濃度が玄米の放射性セシウム濃度に及ぼす影響
 - 用水の影響は溶存態であれば認められるが、土壤にカリを施与することで玄米への移行は抑制される
- ・風評被害について
 - 福島県産米の相対取引価格を用いて、全袋検査実施の中で実需者（消費者）はどこまで求めるのか？
- ・現在進行形の問題として
 - 除染後に導入される客土の問題、除染と営農再開のタイミングのズレ
 - 人口密度の低下（営農活動の低下を招く）

2) 取組まれている対策技術と課題について

- ・農作業時の農地からの被曝抑制のための除染

- 表土はぎとり、反転耕
- ・食品への放射性セシウムの移行抑制のための除染
 - 表土はぎとり、反転耕、樹皮はぎとり、せん枝
- ・農産物への放射性セシウムの移行抑制のための対策
 - カリウム投入
- ・農産物の管理のための対策
 - 全袋検査、食品の放射性物質の挙動
- ・除染廃棄物処理に係る課題
 - コスト（移動に要する経費、時間）
 - 保管期間（保管期間中の線量低下、廃棄物の再利用問題）

3) 検討シナリオ

- ①リスクがあることを前提で移行抑制対策を中止して営農を続ける（基準値超えが発覚した場合は、それぞれについて対応。現在のようなモニタリング体制はとらない）
- ②新たに予算（東電、国、県？）を確保し現状の体制を継続する（コストはすごくかかる）
- ③リスクがある地域は農業活動を制限し、試験栽培を継続してリスクがなくなるまで待つ（放射性セシウムの減衰を待つ）
- ④カリ供給が可能な地域資源の活用（ワラの還元など）を組み合わせた移行抑制対策を推進する（コストはかかる）

3. グループ討議における結果（一部）

- ・森林や林に降った放射性物質は、水も川や海ばかりではなく、畑や田んぼにも入ると思える。
- ・はぎ取った土等は、ふえるばかりでどうなる？
- ・つつんでいる袋はいたみませんか？
- ・放射性セシウムというのはどのくらいの速さで減衰するのか
- ・除染する人、また、リスク 1) をとった場合、農業者の被爆は？
- ・新たな予算はどこから期待できるか
- ・福島県産品の情報からの安全と安心の違い。どのように消費者は乗り越えられるか
- ・土の中からの汚染、少ない理由わかり少し安心
- ・モニタリング体制はとらなくて大丈夫なの
- ・県は大変だと思うので国が対応してはどうか
- ・モニタリング体制とらないとは具体的にはどういうことか
- ・国民 1 人あたりにするとどの程度のコストか

4. シナリオ投票の結果

